

留 学 報 告 書

令和5年 1月 6日

学 部 法文 学科・課程 言語文化

氏 名 田中優希乃

※ 留学先大学での成績証明書を添付すること。（島根大学に直接送付される場合はよい）

1. 留学先大学・学部 国名 アメリカ

大学名 フロリダ大学

現地到着日（ 2021年 12月 24日） 授業開始日（ 2022年 1月 5日）

現地出発日（ 2022年 12月 15日） 授業終了日（ 2022年 12月 10日）

2. 日本を出発するまでの主な手続き及び準備

コロナ渦前から準備をしておき、TOEFLや校内試験を受けたりして派遣が決まりましたが、結果渡航中止になり、一年待ちました。その間に予防接種をフロリダ大学の記入用紙に沿って何種類も受けました。病院では英文の証明書を発行してもらう必要があるの、大きい病院のほうがいいと思いました。フロリダ大学からHousingについてのメールが来てから、私は寮の二人部屋に申し込みました。コロナが落ち着き、渡航可能という判断が下された後、ビザの取得や、航空券の手配、保険の加入などをしました。ビザはオンラインで申し込み、郵送で受け取ることができました。保険は、結局フロリダ大学が認めるアメリカのものに入らなければなりません。また、フロリダ大学に提出しなければならない様々な書類の準備が大変でした。英語での成績証明書や財政証明書の提出、また取りたい授業を入力したりしなければなりません。コロナ渦であったため、ワクチン接種証明書を英文で発行したり、PCR検査も直前で羽田空港で受けました。

3. 自宅から留学先大学までの交通手段（乗物の種類、乗り換え地、所要時間）

自宅（出雲市）から飛行機で羽田空港→羽田空港からアトランタ空港（約13時間）→アトランタ空港か

らオーランド空港（一時間半）→オーランド空港から友達車でフロリダ大学（約2時間）

4. 留学先大学での各種手続きの仕方

オンラインで、授業開始前に交換留学生向けのオリエンテーションがありました。International Centerに行っても分からないことは質問したりしました。Reitz Unionという建物でGator IDという学生証を発行しました。授業の登録は、早めに行わないと希望の授業が取れなくなったりするので、先輩やフロリダ大学にいる友達に聞いたりしながら日本で行っていました。また、大学についてからも、友達に聞きながらDrop and addの期間に気になる授業を受けたりしました。

5. 留学生へのオリエンテーションの内容及びプレースメントテストについて

オリエンテーションの内容は、授業の取り方であったり、フロリダ大学の説明、ビザについての注意点などでした。プレースメントテストはありませんでした。

6. 授業の受け方、ペーパー及び試験の傾向等について

授業は、50分間で週に同じ授業を3回取っていました。一つの授業が基本的に3単位で、一学期に4つ受け合計12単位取りました。授業数が4つしかないので、島根大学と比べて狭く深く学べると思いました。授業中は他の学生のように、パソコンでノートを取りながら講義を聞きました。自分なりにまとめながら授業を受けていると、テスト勉強の際に役立つので良いです。学生数が少ない授業は、教授との距離が近く質問をしたりディスカッションをしながら授業が進められました。大きい規模のクラスは、基本的に講義を聞いてメモを取るという形でした。積極的に発言をすると授業でのParticipation pointが上がるので、良い成績につながります。全体として、毎週出される課題は島根大学に比べかなり多かったです。グループワークなどが多く、頻繁にほかの学生と連絡先を交換してやり取りをしていました。緊張しますが、とにかく初回の授業で誰かに話しかけておいて、友達を作ると後々助けてもらえたりするのでお勧めです。教科書は紙のものはかさばるのでオンラインのものを入手すると楽でした。試験は、オンラインのものと対面のものがありますが、特に変わったことはありません。中には電子辞書を持ち込んでもいいよと言ってくださる教授もいました。

7. 留学先大学で学んだ科目のうち特に良かったもの、先輩に勧めたいもの

受けた中で一番良かったと思えるのが、Public Speakingの授業です。フォーマルなものからカジュアルなものまで様々な形式のスピーチを授業を通してしました。自分が選んだ一つのトピックに関して、短くて3分、長くて8分ほどのスピーチを全て暗記して行いました。ネイティブの学生のスピーチを聞けたり、自身のスピーチのフィードバックなどをもらえたりすることで、スピーキング力が飛躍的に向上したと思います。また、人前で話すことの自信もつけることができました。また、コミュニケーションの授業のListeningについて学ぶ授業では、“聴く”とはどういうことなのかについて学びました。今後様々な人とコミュニケーションを取っていく上で、かなり役に立つ内容だと思います。スペイン語が飛び交うフロリダ大学で、ぜひスペイン語も履修してみたいと思ったので取りました。スペイン語の基礎が身につけられたこと、またスペイン語圏の文化が学べたので文化交流に役立つものになったと思います。Hospitality Managementという授業では、アメリカのカスタマーサービス、ホスピタリティについて学ぶことができ、日本のホスピタリティ産業をグローバルな視点をもっと成長させていきたいという自分の夢に一步近づくことができましたと思います。

8. 留学先大学の住居の種類等について、後輩にどのような寮・アパートを勧めるか

寮はWEAVER HALLという寮のみ選択ができますが、私は寮をお勧めします。理由として、キャンパスに近いということ、またInternational Hallであるため友達ができやすいということです。二人部屋の場合は基本的に留学生とアメリカ人がルームメイトとして組まれます。キャンパス内で夜遅くまでイベントなどがあっても、歩いて帰れる距離だったため安心でした。また、キッチンやトイレ、シャワールームなどは共用ですが、その分みんなで料理を一緒にしたりと、会う機会が多いので友達が作りやすいです。

9. 寮・アパート生活での注意、生活の様子（行事など）、困ったこと、ルームメイトとの付き合い方、（いつから入れるのか、寮の開閉、寮が閉鎖中の滞在場所等）

寮にいつから入れるのかなどはその都度メールが来ます。寮が夏休みの間は閉まるので、アパートに住んでいました。ルームメイトは学期によって変わりましたが、特に困ることはなく2人とも良い付き合いができました。エアコンの温度調整と電気のオンオフについては相談することがありました。気になることがもしあれば、遠慮せず伝えるか、RA (Residence Assistant) の学生に相談するといいいと思います。私は、ルームメイトに履修登録や買い物など手伝ってもらったり、何度も一緒に出掛けたりしました。

10. 留学先での金銭の扱い及び貴重品の管理について

(どのような口座を利用したか、現金とかカードの利用は、自宅からの送金はどうしたか等)

念のため渡航前にデビットカードを作りましたが、アメリカで使うと手数料がかかるのでアメリカのTD Bankというところで口座を作り、そのデビットカードを使って生活しました。現金はたまにATMで引き出していましたが、基本的にどこもカード決済で大丈夫でした。Transfer Wiseという国際送金のサービスを使って日本からお金を送金したりもしていました。心配なので日本のクレジットカードも何枚か持っていました。たまに、ホテルの予約などクレジット決済しかできないところもあったので、持っておいたほうがいいと思います。

11. キャンパス案内 (どんなとき、どこへ行けばよいか等)

何か困ったときはInternational Center (アポ必要)、Book StoreやフードコートのようなものがあるのがReitz Union、図書館は数か所ありますが主はLibrary WestかMarston、ダイニングホールは数か所、病気などの時はStudent Health Care Center、また印刷は図書館やHUBなど様々な場所でできます。

12. 現地案内 (買物、銀行、レストラン、理髪店、美容院等の様子)

買い物は徒歩で行けるPublixや、車やバスで行けるアジアマーケットに行っていました。銀行は友達に頼み車で数分のところに行っていました。キャンパス内にもあります。レストランはゲインズビルに行くつもあり、私は韓国料理や中国料理をよく食べに行きました。カフェやモールもあり、友達と街を散策するのは楽しかったです。美容院は行きましたが、高いのであまりお勧めしません。

13. 失敗談 (どんな小さなことでも)

一度携帯電話を落としたことがありました。アメリカで落とすとまず返ってこないよと言われていましたが親切な方に拾ってもらえてすぐに手元に帰ってきました。より一層気を付けたいと思いました。また、行きの飛行機の乗り換えるときの時間があまりなく、年末で混んでいて入国までに一時間以上かかり大変だったので、時間に余裕のあるフライトを予約したほうがいいと思います。

14. 病気になった場合の対応について（医療費はどのようになっていたか、保険等はどのようにしたか）

夏休み中にコロナウイルスにかかりました。家を出るのもしんどかったので病院には行きませんでした。近くのCVSでコロナの検査をして、陽性だったので家で休養しました。医療費などはかかっていません。

15. お世話になった方々

ルームメイト、寮でできた友達、他の留学生、教授、友達等

16. 留学先国内旅行について（場所、手段、費用、旅行社等）

ニューヨーク 3泊4日、飛行機、500ドル+α

マイアミ、フォートラダデール 2週間、友達の車、友達の家に泊まったため費用かからず

キーウェスト、オーランド 3泊4日、レンタカー、500ドル+α

17. 気候と服装について

1月～2月は予想を上回る寒さだったので、冬服をいくつか買いました。ヒートテックをもっていって置いて本当に良かったです。また、一年を通して朝晩と日中の気温がかなり違います。半袖を中に着て、上に長袖のパーカーを羽織ったりして体温調節をしていました。夏は暑いですが日本程度の暑さです。

18. 日本からぜひ持っていきたいもの（学用品、衣服、食品、薬、運転免許証等）

文房具は使い慣れたものを使いたくて持っていきました。電子辞書は必要です。薬はたくさん持って行って置いて良かったです。レンタカーを借りる際、国際免許証だけでなく日本の免許証も必要でした。梅など日本のお菓子はあまり売ってないので持ってきたほうがいいと思います。ですが、アジアマーケットに日本食はたいていあります。

19. 留学に際し最も役立った本は（専門書、旅行案内書を含めて）

特に利用していません。

20. ホームステイの依頼方法

ホームステイは、過去にお世話になった方に一度泊めてもらいました。またお会いしたいとメッセージを

したところ、快く引き受けて頂きました。あとは、何人かの友達の実家に泊めてもらいました。その際はお礼の品を持参しました。

21. 留学費用について

1) 旅費	(往) <u>15万</u> 円, (復) <u>10万</u> 円
2) 準備費用	<u>10万</u> 円
3) 大学へ納入する費用	<u> </u> 円
授業料 (年間合計)	<u>50万</u> 円
保険等その他の費用	<u>8万</u> 円
4) 住居費 (光熱費等含む)	<u>50万</u> 円
5) 衣服代, その他雑費	<u>50万</u> 円
6) 帰国時の土産代, 郵送料等	<u>5万</u> 円
7) 留学先国内旅行費用	<u>25万</u> 円
8) 上記を含めその他すべてを含めた合計金額	<u>250万</u> 円

現地通貨 20000 ドル 日本円換算 250万 円

22. 帰国時の荷物の作り方, 送り方等

アメリカから荷物を送るのは高かったので、スーツケース、ダッフルバッグ等に入れて持ち帰りました。
生活用品は、他の留学生に譲渡しました。

23. 留学して得たこと (全般についての感想文)

留学して得たことは大きく分けて英語力 (コミュニケーション力)、また自分のメンタル面・感情をコントロールする力です。初めの頃は失敗を恐れて積極的に発言をすることができなかつたり、ネイティブの発言を聞き取ることができず落ち込んでいることが多かったです。しかし、英語が正しいかどうかはさほど大切ではなく、英語は様々な人とつながるコミュニケーションのツールに過ぎないということに気が付きました。積極的に話せば話すほど人との距離が縮まり、留學生活も楽しくなりました。アメリカ人が日本人と違うと思うのは、“聞く” ことより “話す” ことを重視しているという点です。静かに話を聞いているだけではなかなか輪に入れないことに気づき、話す努力をたくさんしました。目標の一つであったアメリカのカスタマーサービスを学ぶために、スターバックスでアルバイトもしましたが、お客さんや働く仲間とコミュニケーションを取ることを通し、英語力の向上だけでなく、様々な価値観・文化の違いも学ぶことができました。アルバイトを通して、英語によるリーダーシップや積極性、カスタマーサービス力も身に着けること

ができたと思います。英語に関しては、まだまだ学び途中なので、英語の日記を続けたり、検定の勉強に励むなど、得たものを忘れないようにしたいと思います。

メンタル・感情面のコントロールに関しては、留学中の孤独や不安感、様々な問題と闘いながら、徐々に自分をコントロールできるようになりました。例えば友達の話している内容がわからず落ち込んだ時、うまく話せず悩んだ時、テストの結果が悪かった時、などに自分なりのリラックスできる方法を探したり、友達や家族に相談するなどしてなるべく切り替えを早くできるように努めました。日本にいた頃は何か失敗するとひどく落ち込みがちでしたが、留学中は全てが“経験”“学び”と考えることで、辛いことも自分の成長に繋がると考えられるようになりました。留学中は、日本にいた時よりも自分と向き合う時間が多かったことで、自分の在り方について再度考えられるきっかけとなり、様々な面で成長できたと感じます。留学前より確実に強くなり、自信がある人間になりました。この経験を活かし、今後もグローバルな社会に生きる一員として成長し続けていきたいと思っています。